

東邦大学学術リポジトリ

Toho University Academic Repository

タイトル	前谷 容教授送別の辞
別タイトル	Farewell Professor Iruru Maetani
作成者（著者）	富永, 健司
公開者	東邦大学医学会
発行日	2023.03.01
ISSN	00408670
掲載情報	東邦医学会雑誌. 70(1). p.13 14.
資料種別	学術雑誌論文
内容記述	退任記念
著者版フラグ	publisher
JaLDOI	info:doi/10.14994/tohoigaku.2022 046
メタデータのURL	https://mylibrary.toho u.ac.jp/webopac/TD40708739

前谷 容教授送別の辞

富永 健司

東邦大学医学部内科学講座消化器内科学分野（大橋）

前谷容教授は、2023年3月31日をもちまして東邦大学医学部内科学講座消化器内科学分野（大橋）教授をご退任されます。長年のご功労に敬意を表し、心より感謝申し上げます。僭越ではございますが、お世話になりました教室員のひとりとして送別の辞を述べさせていただきます。

前谷教授は1982年3月に東邦大学医学部を卒業されました。1982年6月から東邦大学医学部附属大橋病院で研修された後、国立療養所東京病院、自治医科大学麻酔科・ICUで研鑽を積み、1984年6月に東邦大学医学部内科学第三講座研究生になられております。1986年4月から1年間、亀田総合病院に消化器内科レジデントとして出張された際に胆膵疾患に興味をお持ちになられたと伺っております。1987年4月に東邦大学医学部内科学第三講座に復職された後、臨床、研究、教育活動にご尽力され、1990年11月に医学博士号を取得されています。

1991年6月に東邦大学医学部内科学第三講座助手、1997年10月に東邦大学医学部内科学第三講座（現消化器内科）講師になられた後、2006年5月に東邦大学医学部内科学講座消化器内科分野（大橋）教授に就任されました。その後、約17年間にわたり消化器内科の発展のため、臨床、研究、教育活動にお力を尽くされました。

前谷教授は、胆膵疾患および消化管疾患の内視鏡診断・治療において非常に多くの功績をあげられております。

その中でも胆膵疾患に対する診断・治療、消化管悪性狭窄に対するステント治療および胃瘻造設・管理につきましては日本を代表する功績を残されております。これらに関する黎明期における功績は特に偉大で、Gastrointestinal Endoscopy 誌、Endoscopy 誌、Journal of Gastroenterology 誌、Digestive Endoscopy 誌など消化器疾患の一流雑誌に多数の原著論文として業績が残されております。これらの功績は日本から世界へ発信され、日本のみならず、世界中の消化器内視鏡医に影響を与えました。これらの疾患の診療の進歩に大きな足跡を残されたことは、前谷教授の論文の被引用数などを見ても明らかです。その後も退任まで多

くの業績を残されております。

これらの臨床研究業績は、患者さんにとって最良の診療とは何かという意識を常に持ち、日常診療を大切に行い、その努力の結果として生まれるものであり、前谷教授の診療に対する姿勢を拝見し、学ばせていただきました。

教室員に対しては様々なことについて、いつも優しくご指導いただきました。前谷教授は内視鏡関連手技、画像下治療において超一流の技術をお持ちになられていたため、教室員はその技術について特によくご指導いただきました。私個人的にはとても前谷教授の技術の領域にまで到達することはできませんでしたが、前谷教授の正に達人と呼ばれるにふさわしい技術による診断・治療により多くの患者さんが救われました。これは教室員のみならず、前谷教授と診療に携わった経験のある医師の衆目の一致するところであります。

また、温厚篤実なお人柄で患者さんはもちろんのこと、医師、看護師、学生、メディカルスタッフの皆様にも常に優しく対応なさっていらっしゃるお姿は尊敬の念に堪えません。

学会活動においては、日本消化器内視鏡学会、日本消化器病学会、日本胆道学会、日本腹部救急医学会をはじめ、数々の理事、評議員、委員を務められ、日本の消化器内科学の発展に貢献されました。第54回日本画像診断研究会（2011年2月19日）、第99回日本消化器内視鏡学会関東地方会（2014年12月6日・7日）、第10回大腸ステント安全手技研究会（2022年10月28日）、第372回日本消化器病学会関東支部例会（2022年12月10日）を主催されております。

東邦大学医療センター大橋病院の病院運営につきましても多大な貢献をなされました。2006年7月から2015年6月まで、および2018年7月から2021年6月までの期間、東邦大学医療センター大橋病院院長補佐を務められ、また、長きにわたり、医療連携室長として、地域医療との連携強化を推進されました。

前谷教授には長年にわたり温かいご指導を賜り、教室員一同、心より感謝申し上げますとともに、今後のご健勝を

お祈り申し上げ、送別の辞とさせていただきます。ありがとうございました。